

技術評価報告書

申込者： 共英製鋼株式会社 代表取締役社長 廣富 靖以
大阪市北区堂島浜一丁目4番16号 アクア堂島西館18階
共英加工販売株式会社 代表取締役社長 宇佐見 達郎
山口県山陽小野田市小野田6289番18

技術名称： キョウエイリング SD490、キョウエイリング 685、
キョウエイリング 785 設計施工指針

当法人「建築構造技術審議委員会」において慎重審議の結果、2023年6月1日付けの技術評価書(SABTEC 評価 20-01R1)の通り、一般社団法人建築構造技術支援機構「建築構造技術検証要綱」で定めた技術基準と照らし合わせ、本技術は妥当なものであると判断されたことを報告する。

2023年6月1日

一般社団法人
建築構造技術支援機構

代表理事 益尾 潔

建築構造技術審議委員会

委員長	窪田 敏行	近畿大学	名誉教授
副委員長	田才 晃	横浜国立大学	名誉教授
委員	磯 雅人	福井大学大学院工学研究科	教授
〃	岸本 一蔵	近畿大学建築学部建築学科	教授
〃	田中 剛	神戸大学大学院工学研究科	教授
〃	都祭 弘幸	福山大学工学部建築学科	教授
〃	三谷 勲	神戸大学	名誉教授

キョウエイリング SD490、キョウエイリング 685 キョウエイリング 785 設計施工指針 専門部会

主査	岸本一蔵	近畿大学建築学部建築学科	教授
委員	田才 晃	横浜国立大学	名誉教授



技術評価書

申込者： 共英製鋼株式会社 代表取締役社長 廣富 靖以
大阪市北区堂島浜一丁目4番16号 アクア堂島西館18階
共英加工販売株式会社 代表取締役社長 宇佐見 達郎
山口県山陽小野田市小野田6289番18

技術名称： キョウエイリング SD490、キョウエイリング 685、
キョウエイリング 785 設計施工指針

技術概要： キョウエイリング SD490 は SABTEC 評価 16-05 (2016年9月23日) を取得した JIS G 3112 に適合するタフコン SD490 を用いた普通強度せん断補強筋であり、キョウエイリング 685 は大臣認定取得のタフコン USD685、キョウエイリング 785 は大臣認定取得のタフコン USD785 を用いた高強度せん断補強筋である。

キョウエイリング SD490、キョウエイリング 685、キョウエイリング 785 設計施工指針は、キョウエイリング 785 の実験結果を踏まえ、SABTEC 評価 21-01 (2021年1月22日) のキョウエイリング 685 設計施工指針を改定し、キョウエイリング 685 設計施工指針 7 章の中段筋基礎梁の設計を中段筋梁の設計に拡張している。

本委員会は、一般社団法人建築構造技術支援機構「建築構造技術検証要綱」で定めた技術基準と照らし合わせ、下記の通り、本技術は妥当なものであると判断した。

2023年6月1日

一般社団法人
建築構造技術支援機構
建築構造技術審議委員会
委員長 窪田 敏行

記

評価方法： 申込者提出の下記資料を基に、技術評価を行った。
キョウエイリング SD490、キョウエイリング 685、キョウエイリング 785
設計施工指針、説明資料および関連資料
これらの資料には、本技術の目標性能達成の妥当性を確認した技術資料がまとめられている。

評価内容： キョウエイリング SD490、キョウエイリング 685、キョウエイリング 785 を用いた鉄筋コンクリート造柱、梁は、長期荷重時に使用上支障を来たすひび割れおよび短期荷重時に修復性を損なうひび割れを起こさず、キョウエイリング SD490、キョウエイリング 685、キョウエイリング 785 設計施工指針に定められたせん断終局耐力を有すると判断される。

技術評価内容

申込者

共英製鋼株式会社
代表取締役社長 廣富 靖以
大阪市北区堂島浜一丁目4番16号 アクア堂島西館18階
共英加工販売株式会社
代表取締役社長 宇佐見 達郎
山口県山陽小野田市小野田6289番18

技術名称

キョウエイリング SD490、キョウエイリング 685、キョウエイリング 785 設計施工指針

適用範囲

- 適用部位 鉄筋コンクリート造柱、梁
- 材 料

せん断補強筋 キョウエイリング SD490 (種類) JIS G 3112 SD490
(呼び名) D10, D13, D16
キョウエイリング 685 (種類) タフコン USD685
(大臣認定番号 MSRB-0123、令和3年1月22日)
(呼び名) D10, D13, D16
キョウエイリング 785 (種類) タフコン USD785
(大臣認定番号 MSRB-0131、令和5年6月1日)
(呼び名) KK13, KK16

コンクリート 種 類 : 普通コンクリート
設計基準強度 : 21 N/mm² 以上、60 N/mm² 以下

技術評価の主な審議事項

- キョウエイリング 785 を用いた梁の損傷短期許容せん断力、せん断終局耐力および曲げ降伏後の変形性能の妥当性
- キョウエイリング 785 を用いた基礎梁横補強筋のフック付き重ね継手の妥当性

技術評価に際して行われた実験等の概要

キョウエイリング 785 の妥当性確認実験として、梁(8体)および基礎梁(8体)が行われ、キョウエイリング SD490、キョウエイリング 685、キョウエイリング 785 設計施工指針の妥当性は、上記実験および SABTEC 高強度せん断補強筋設計施工指針(2021年)検証実験と照らし合せて確認されている。

技術評価の経過

2023年3月7日開催の第57回建築構造技術審議委員会(以下、本委員会と略記)で申込者提出の技術資料について検討し、詳細検討は専門部会を設けて行うこととした。専門部会では、本委員会での指摘事項を踏まえて修正された技術資料について慎重に審議を行い、結果を2023年5月22日開催の第58回建築構造技術審議委員会に報告した。

建築構造技術審議委員会では、申込者提出の技術資料について慎重に審議を行い、内容を検討した結果妥当なものであると判断した。

本技術の発効日は、せん断補強筋用高強度鉄筋棒鋼タフコン USD785 の大臣認定(MSRB-0131)の確定日とした。

以上